

大人が学ぶ <誇りを持てる日本の歴史> 学習会 ワークシート

【17限目】 国家の命運をかけた日露戦争 p 192 - 193

令和4年12月4日

【宿題の解答】教育勅語の12の徳目

p 185

○教育勅語の中から12の徳目を抜き出してみます。

1)	7)
2)	8)
3)	9)
4)	10)
5)	11)
6)	12)

<コラム> 福沢諭吉の『学問のすすめ』と脱亜論

p 187

○朝鮮半島の地政学的位置と日本

○朝鮮半島の近代化・独立国家化を望んだ日本→援助→挫折…というコースをたどった

○「西洋が東洋に迫るそのありさまは、火事が燃え広がるのと同じである。この火事から日本とい家を守るには、日本の家だけを石造りにすればすむというものではない。近隣に粗末な木造家屋があれば類焼はまぬがれないからである」(福沢諭吉)

○脱亜論…甲申事変(1884年)の挫折→時事新報に「脱亜論」を発表

○日清戦争に日本が勝利した原因

- ・陸戦でも海戦でも日本は清を圧倒
- ・装備は近代化されていて互角
- ・日本軍の訓練・規律・戦闘意欲が清を上回る…近代国民国家を実現した日本
- ・中国の近代史はいつから始まるか

○下関条約（1895）

- ・清は朝鮮国の独立を認める
- ・遼東半島と台湾を日本に割譲
- ・賠償金 3 億円（日本政府の税収の 3 倍）

○三国干渉

- ・日清戦争の敗北→欧米列強による清の分割
- ・ロシアは東アジアに領土的野心
- ・ロシアが独仏を誘って三国干渉を行う
- ・国力・軍事力に劣る日本は遼東半島を奪われる→ロシアは旅順・大連を租借、東洋最大の軍事基地を設ける
- ・日本は「臥薪嘗胆」を唱えて国力の充実に努める

○義和団事件（1900）

- ・日清戦争の敗北で「眠れる獅子」から「眠れる豚」になった中国
- ・キリスト教宣教師の布教の始まり→土地の収奪
- ・土着の宗教で対抗し、反抗する動きが起こる
- ・「義和団の乱」の英訳は→ the Boxer Rebellion
- ・各国外交官の殺害→北京籠城…「北京の 55 日」

○日本軍を指揮した柴五郎の活躍

- ・柴五郎（1860～1945）会津藩士の家の五男として生まれる 8 歳で藩校入学
戊辰戦争で祖母・母・妹が自邸で自決 斗南藩（青森県）に転封される
陸軍幼年学校→陸軍士官学校をへて 1900 年、北京駐在武官として義和団の乱に遭遇
少数の日本軍人と民間人を守る籠城戦を指揮し、世界から称賛される
- ・「柴五郎中佐は、籠城中どの士官よりも有能で経験も豊かであったばかりか、誰からの好かれ、尊敬された。当時、日本人とつき合う欧米人はほとんどいなかったが、この籠城を通じてそれが変わった。日本人の姿が模範生として皆の目に映るようになった。日本人の勇気、信頼性、そして明朗さは、籠城者一同の賞讃の的となった」（英国の作家ピーター・フレミング）
- ・「日本兵の勇気と大胆さは驚嘆すべきで、我が英水兵が続いたが、日本兵の凄さはずば抜けて一番だった」（英公使館員）

○ロシアの南下

- ・19世紀末、ロシアは地中海への出口を求めてクリミア戦争を戦い敗れて、不凍港を求めて東アジアに目を向ける
- ・シベリア鉄道の延伸 p 190 ①参照 ・1891 シベリア鉄道建設に着手→大津事件
- ・ウラジオストク（「東方を征服せよ」）→朝鮮半島に手を伸ばす

○日露条約か日英同盟か

- ・日露条約派…伊藤博文、井上馨…満韓交換論
- ・日英同盟派…山形有朋、桂太郎、加藤高明

【問題】論争に決着をつけた小村意見書の内容を推測してみよう。

◆日露条約の問題点	◇日英同盟の利点
▼	▽
▼	▽
▼	▽
▼	▽

<答合わせ> p 191 ⑥小村意見書

■奉天会戦と日本海海戦

p 192

○日露戦争の経過

- ・1904.2.10 開戦の詔勅 戦場は朝鮮と満州
- ・旅順要塞攻略戦（乃木希典）155日死傷者5万9千→ロシア旅順艦隊を全滅させる
- ・1905.3 奉天会戦に勝利 秋山好古が騎兵隊を指揮してコサック騎兵を破る
- ・1904.10 ロシアのバルチック艦隊が出発 地球の4分の3を回航
- ・1905.5 日本海海戦で東郷平八郎率いる日本の連合艦隊（秋山真之参謀）、バルチック艦隊をほぼ全滅させる

○日露戦争における武士道精神の発露 日露戦争の究極の勝因

- ・水師營の会見 明治天皇「ステッセル将軍を武士の礼を以て遇せよ」 p 192 ②
- ・開戦の詔勅と同時に出了た文部大臣訓令 「今やロシアとことを構えるに至ったが、もとより平和を永遠に取り戻すためである。学生・生徒が客氣にかられてロシアの国民に対し嘲罵を逞しくし、他の外国人にまで悪感情を抱かせるようにすることは、子女の教育上最も注意を要するところである」…世界に例のない訓令

- ・ 1904.5 戦地で捕虜の見学を断る一等卒 「自分は在郷のときは職人であります。軍服を着たからには日本の武士であります。どこのどういう人か知りませぬが、敵ながら武士であるものが運拙く捕虜となって彼方此方と引き回され、見世物にされること、さだめて残念至極でありましよう」と察せられ、気の毒でたまりませんから自分は見学に行つて捕虜を辱めたくありません」(長谷川伸『日本捕虜志』中公文庫)
- ・ 松山捕虜収容所 戸外でのレクリエーション 電車に乗つての市内見学 道後温泉入浴
ロシア兵捕虜「自分は生涯のなかで、天国のようなところにいたことがある。それは日本での捕虜生活の期間だった」 戦場で「マツヤマ!」と叫んで投降
- ・ ルーズベルトはなぜ日本に有利な仲介をしたか 斎藤修一郎訳『四十七浪人』
ルーズベルトが津田梅子に語つたことば「あなたは忠義浪人という本を知つておられるか。余はこの本によつて日本を知り、日清・日露両戦役の大勝の勝因も知つてゐる」
- ・ 「久松五勇士」 p 149 名もなき国民の一つひとつの行動が日本の勝利をもたらした

■ポーツマス条約

p 192 - 193

- ・ 日露は国力で 10 分の 1 (p 193 ㊤)、日本は国家予算の 8 年分の戦費を使い尽くす
陸戦、海戦に勝利しても、長期戦には勝てない→適当なタイミングでの戦争終結
講和賠償金とれず、新聞各紙が非難→日比谷焼き打ち事件 (国民は事情知らず)
- ・ 負け続きのロシアに革命運動が起こる
- ・ アメリカ セオドア・ルーズベルト大統領、日露の講和を仲介
- ・ 1905.9 ポーツマス条約締結
 - 1) 韓国における指導権
 - 2) 遼東半島南部の租借権
 - 3) 北緯 50° 以南の樺太の領有権
 - 4) 南満洲鉄道 (長春-旅順間) の権益
 - 5) 沿海州・カムチャッカ沿岸の漁業権

■世界を変えた日本の勝利

p 193

- ・ 日露戦争は日本の生き残りをかけた戦争だった→結果として世界史を変えた
- ・ 日本の勝利は西欧列強の植民地にされていた諸民族に独立への希望を抱かせた
- ・ ロシアに圧迫されていた諸国にも国家防衛の勇気を与えた
- ・ 西欧には日本への警戒感が生まれ、黄禍論が欧米に広がるきっかけとなった

<コラム> 世界が見た日露戦争

p 196

- 孫文の観察
 - ・ ヨーロッパ人の反応
 - ・ アジア人の反応
- 独立への意欲をかきたてる
 - ・ ネルー (インド)
 - ・ ムスタファー・カーミル ((エジプト))
 - ・ シーラーズ (イラン)
 - ・ アーノルド・トインビー (イギリス)

【特別研究】他社の教科書は日露戦争をどう描いているか

君死にたまふことなかれ^(う)

旅順口包圍軍の中になる弟を嘆きて
与謝野晶子^{よさのあきこ}

あゝをどうとよ 君を泣く^{(あ) (お)}

君死にたまふことなかれ^(う)

末に生まれし君なれば

親のなさはまさりしも

親は刃をにぎらせて

人を殺せとをしへしや

人を殺して死ねよとて

二十四までをそだてしや

(略)

君死にたまふことなかれ^(う)

すめらみことは戦ひに

おほみずからは出でまされ

かたみに人の血を流し

獣の道に死ねよとは

死ぬるを人のほまれとは

大みこころの深ければ

もとよりいかで思されむ^{(お) (お)}

(略)



④ 与謝野晶子(1878~1942)
〈国立国会図書館蔵〉

・学芸会



④ 東アジアの情勢(ビゴー筆)
日露戦争をめぐる列強の関係をえがいたものです。

・東京書籍



① 戦火で焼け出された人びと(中国東北部)



⑦ 増税に泣く国民(さいたま市立漫画会館蔵)

・教育出版

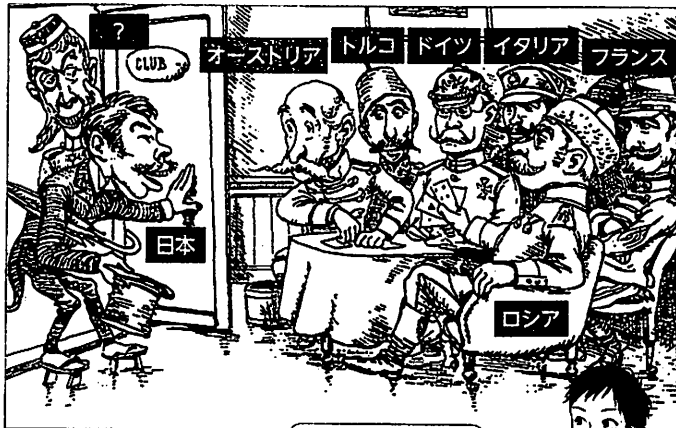
・学芸会

大人が学ぶ <誇りを持てる日本の歴史> 学習会 ワークシート
 【18限目】世界列強の一員・日本と東アジア p 198 - 199
 令和4年12月4日

■日本国家の新たな試練

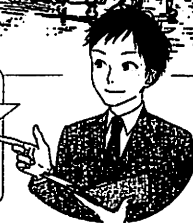
p 198

・日本文教出版



会 2 日本の列強国への仲間入りを風刺した絵 (1897年 ビゴー筆)

日本の後ろに立っているのはどこの国かな。



○日露戦争に勝利した日本は世界の列強の仲間入り

- ・欧米列強に朝鮮や南満洲を日本の勢力圏として認めさせる
- ・ライバルとして欧米列強から警戒心をもって見られるようになる→日本国家の新たな試練

○白船事件 (1908)

…アメリカの対日砲艦外交

■韓国併合

p 198

○欧米列強が認めた日本の勢力圏

- ・日本…1905 日韓協約→韓国を保護国に 軍事・外交権を日本が握る体制
- ・ロシア…北満洲・蒙古 イギリス…インド アメリカ…フィリピン
- ・ハーグ密使事件 (1907) …韓国皇帝の密使は相手にされず

○韓国併合 (1910) …併合 (annexation) と植民地化 (colonization)

○朝鮮総督府による近代化政策

- ・鉄道の建設
- ・灌漑施設
- ・土地調査
- ・学校の設置…ハングル文字の使用

■中華民国の成立

p 199

○日清戦争の敗北→清朝は近代化に取り組み日本への留学生を派遣→日本が清朝打倒の革命の根拠地に 1905 孫文、中国同盟会を東京で設立 日本人支援者・宮崎滔天

○辛亥革命 1911.10.10 武昌武力蜂起→ 1912.1.1 孫文帰国、中華民国成立を宣言 溥儀は退位し清朝滅亡

○近代中国をつくった日本文化

人文・社会科学用語の 70 %は日本語に由来 「中華人民共和国」